

# 平成28年度第2回前橋市総合教育会議会議録

日 時 平成28年12月19日（月） 午後3時00分から午後4時28分まで

場 所 市役所3階31会議室

(市長)

山 本 龍

(教育委員)

委 員 長	村 山 昌 暢	委員長職務代行者	吉 川 真由美
委 員	湯 澤 晃	委 員	奈 良 知 彦
教 育 長	佐 藤 博 之		

(事務局)

教 育 次 長	関 谷 仁	指導担当次長	塩 崎 政 江
総 務 課 長	小 島 順 子	教育施設課長	大 舘 勉
文化財保護課長	小 島 純 一	学校教育課長	林 恭 祐
生涯学習課長	小 崎 昭 一	青少年課長	時 澤 秀 明
総合教育プラザ館長	高 木 威	図書館長	作 宮 朗
前橋高等学校事務長	中 澤 修 司	子育て施設課長	松 井 英 治

教育次長　　これより平成28年度第2回前橋市総合教育会議を開会いたします。本日の進行は事務局で務めさせていただきます。それでは最初に山本市長からごあいさつをお願いいたします。

市長　　第2回総合教育会議の開催に当たり、教育委員の皆様並びに教育長さん、大変ありがとうございます。本日は幼児教育をテーマにすると聞いておりますので、ご意見やお考えをいただけたらと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

教育次長　　ありがとうございます。続きまして村山教育委員長からごあいさつをお願いいたします。

教育委員長　　教育委員長の村山でございます。総合教育会議は本日で5回目になりましたが、本日の話題は先ほど市長もおっしゃったように幼児教育を中心とした話し合いができればと思っています。幼児教育というのは、全ての教育の根っこにあるものだと思います。本日の会議が実り多きものとなりますよう、よろしくをお願いいたします。

教育次長　　ありがとうございます。それでは、協議事項に入らせていただきます。

#### 議題1　まえばし幼児教育充実指針について

教育次長　　議題1の「まえばし幼児教育充実指針について」ですが、28年度第1回総合教育会議においても市長部局の福祉・保育部門にもご参加いただき「幼児期の教育・保育と親育ち」をテーマにご議論をいただきました。たくさんの意見を会議の中でいただき、それを踏まえまして、幼児教育充実指針の策定を進めておりますので、概要について説明させていただきます、その後、意見交換をお願いしたいと思います。

指導担当次長　　前回の総合教育会議の中で、幼児教育充実指針がどうあったら良いのかというご意見をたくさんいただきました。そこでご協議いただいたことを基に、幼児教育充実指針の策定委員会を立ち上げました。策定委員会には、福祉部の課長さん方、また、公立幼稚園、公立保育所、私立幼稚園、認定こども園の関係、そして小学校の関係、また後ほどお話しさせていただきますが、幼児教育アドバイザーの方々にもお集まりいただいて協議をしてきました。本日はお手元に現時点での案を配付させていただきました。策定委員さん達のご意見もあって、充実指針はバッグの中に入れて持ち歩けるようなサイズの冊子に最終的に仕上げたいと思っております。

策定委員さんからは、この充実指針を幼稚園、保育所、認定こども園

の先生方にまず知って欲しいというお話をいただきました。そうすると、先生方が「今やっている保育はこれで良いんだ。」という自信につながり、また、園長や所長は先生方に「ほらここに書いてあるでしょう。だから一生懸命保育しましょうよ。」とすることができます。つまり、先生方にとって支えとなるように充実指針が使えるのではないかと考えています。そして、実は保護者になかなか伝えにくいことも「ここにあるから。」ということで伝えやすくなるのではないのでしょうか。後から説明しますが、ここに挙げた五つの体験について保護者に是非考えていただきたいのですが、そうは言っても、「もし風邪を引いたらどうするの。」、「もし怪我したらどうするの。」と言われてしまうと言いにくくなります。でも、幼児の育ちに五つの体験が大事だということが充実指針に裏付けされることによって、保護者と一緒になって子どものことが考えられるのではないかなというようにお話をいただき、こうした議論を踏まえて充実指針が作られています。

タイトルについても様々なご意見がありました。案には、「めぶく～幼児の育ち～子どもも大人も育ち合うために」というタイトルを付けさせていただきました。「前橋ビジョン」にもあるように「めぶく」は、幼児期こそ大事だろうと考え、この言葉を是非使いたいという話を市長さんにも相談させていただいて、了解が得られたので使用しています。前橋らしさが出るのではないかと考えています。

そして、「子どもも大人も育ち合う」ということについても、策定委員さんから意見がたくさんありました。子どもを育てながら親も親として育っていくということについて、前回の総合教育会議でもお話をいただいたと思いますが、実は先生方ももしかしたら子どもと共に育っていくところもあるのではないのでしょうか。また、子育て支援をしている市民の方々も子どもと共に育っていくところがあるのではないのでしょうか。子どもも大人も育ち合う、そんな充実指針になったら良いな、そうしたいなと考えています。

全ての幼児のために、全ての幼児に体験させたいということは、幼児に関わる大人と一緒に考えなければならないと思います。策定委員さんからは、充実指針が策定された後に、どうやって市民に周知していくのが課題だという意見がありました。「是非、市の重要施策としてアピールして欲しい。」や「県都前橋創生プランとも関わるので、市長部局の方々にも一緒になってやってもらいましょう。」、あるいは、福祉部の課長さん方からは、「是非一緒にやりましょう。」というお話もいただいています。前橋市は幼児期の教育・保育を重要だと考えているということを市民に対してアピールするにはどうしたら良いか、そこが一番の課題だと考えております。

この事業を進めるに当たり、前回の会議で、先生方のために現場研修をすることと保護者を応援するために子育て井戸端会議をすること、さ

らに幼児教育センターから幼児教育アドバイザーが出向いていくというお話をさせていただきました。公立幼稚園には、幼児教育センターの実践モデル園として、既に先生方を応援するため子育て井戸端会議を実施して、そこからたくさんの成果を得ることができました。それを基に今年度、あと3所残っていますが、公立保育所も全所で現場研修をしてくださっています。ほかに私立保育園・認定こども園も合わせると13園から要請があって、幼児教育アドバイザーが現場に出向いて現場研修を行っています。そうやって今進めている中で、やはりこれらの五つのことが本当に大事であるということを現場の先生方からお聞きすることができました。この現場の先生方のところに行く幼児教育アドバイザーの方については前回もお話させていただきましたが、幼児教育に関わる様々な分野の専門家の集まりです。今年度は14人の方をお願いしていますが、今年度は文科省に「幼児教育の推進体制構築事業」として指定をいただいて、そちらのお金で幼児教育アドバイザーの報償費を出していただくのですが、昨年度までは市の予算として報償費を出させていただいております。時給でいえば2,000円から4,000円ぐらいです。是非幼児教育アドバイザーについて色々なところに広めていきたいと思っております。

では、今回お示しさせていただいた充実指針の中身ですが、前回の会議では「自然に触れる」ということを例示させていただきました。「自然に触れる」のも幼児期にどの子にも体験して欲しい。「友達とかかわる」のも同年代の友達と関わることも是非ここで経験して欲しい。家の中でビデオやゲームをしているだけでなく、是非外で遊んで欲しい。「道具を使う」こともその発達に応じてやって欲しい。色々なものを「食べる」という体験もして欲しい。この五つの体験を今回の充実指針の中では訴えています。では、なぜ五つの体験が大事なのでしょうか。これは現場の先生方にたくさん聞いて、何となく大事だと思っているのだけどなかなか実施できないことを五つ挙げさせていただきました。これらについて、この後の協議でどうしたら推進できるのか、先生達が自分の保育を振り返って、自信を持って子ども達と関われるようにするためにはどうしたら良いのか。あるいは親が子育てを楽しくなれるようにするには、どうしたら良いのかということを考えたいと思っております。

本日は、このような五つの内容で進めるということについてのご協議と、今後この充実指針ができた後、どうやって推進したら良いか、どうやって周知したら良いかなど、今後の進め方についてもご協議いただけたらありがたいと思っております。短い時間ではありますが、よろしくお願いたします。

教育次長

ありがとうございました。それでは、ここから意見交換をいただきました

いと思います。本日は次第にもございますように、この後に「平成29年度教育行政の大綱の策定について」と協議事項が二つありますことから、今回の幼児教育充実指針の関係につきまして、おおよそ20分ほどご協議をお願いしたいと思います。よろしくどうぞお願いします。

教 育 長

私の方で進行役をさせていただきます。

今、色々な話がありました。幼児教育充実指針というよりも前橋の全ての幼児に、幼児としての育ち、子どもが大人になるに当たって大切なことを幼児期のうちに身に付けて欲しいというお話がありました。どこからでも良いので感想でも何でもお話しただいて、そこから糸口にして色々な話をしていきたいと思います。

吉 川 委 員

よく村山委員長さんから子どもにとって最初の社会が家庭で、その次に出て行くのが幼稚園であり、保育園であるというお話をいただくのですが、特に初めて子育てをするお母さんにとっては、何からしたら良いのかということがなかなか分からないものです。そのような時に充実指針のようなものを拝見できたら非常にありがたいと思います。子どもがどのように幼稚園、保育園を過ごしているかということを園に伺う時に、どこまでが幼稚園、保育園に期待して良いのか、どこまでが家庭でやるべきことなのか迷うこともありますので、充実指針があれば非常に話がしやすくなると思います。家庭ではここまでできます、園ではどうですかという話をしていくことができるのではないかと思います。

教育委員長

先ほど指導担当次長さんがおっしゃったように、現場の先生方がお子さんと関わるのに、こういう体験をさせたいのだけど、「だけど」に続く「、、、」の部分ですが、やはり、子どもさんに怪我をさせたくないというお考えがあると思います。五つの体験ということですが、おそらくまとめると、子どもの外界との関わり方が五つに分けて書いてあると私は思っていたのですが、外界と関わって、外界という自分ではない環境との関わり方を学んで成長していくというのがまさに人間の成長だろうと思いますし、それをサポートするのが教育だと私は思っています。

外界と子どもさんの関わりの中で一番プラスになるのが、うまくいかないという体験を子ども達にってもらうことだと思います。要するに失敗するとか、怪我をするということになります。失敗や怪我するというのは、少し怪我する、少し失敗するというのが良いので、大怪我しては困りますが、十分お子さん本人や周りのサポートで、お子さんがやり直して克服できる程度の失敗や怪我を経験させてあげるのが、幼児期の教育としては理想的なのだと思います。乗り越えられる程度のハードルを提示してあげて、克服する体験をってもらう。そのお子さん達にとって丁度良いハードルをどうやって提示してあげるのかというのは、すごく

考えなければならないと思います。それを考えることが幼児教育の一番の目的ではないかと思います。

教 育 長

ありがとうございました。学校教育って、特に高校教育などは、失敗して良いよという教育はなかなかできないですね。でも、幼児教育って失敗をしながら、乗り越えながらというようなところがあると思いますが、奈良委員さんいかがですか。

奈 良 委 員

高校生でも、やはり失敗するという経験は大事だと思います。全てが思うようにいかない、そういう中でどのように対処するのかを学ぶ。でも、幼い頃に色々な体験を通してつかんだものがあると、やはり高校生になって失敗しても乗り越えていく力になると思います。色々な体験をしながら、経験をすることが非常に大事だと思いますし、それがその後大きく生かされると思います。

もう一つ、各方面の方々に協議を重ねて充実指針のたたき台を作っていただきましたが、私が一番気になるところは、「とはいうものの」という親の気持ちです。親に体験の大切さを知っていただくための、その方策こそが大事だと思います。幼稚園や保育園の先生方は理解できていると思うのですが、「とはいうものの」という親との信頼をどう構築するか、それを幼児教育アドバイザーがどうサポートするのかということが大事だと思います。

湯 澤 委 員

私もこの「めぶく」というのは良いなと思って見ていました。まさに村山委員長さんのおっしゃるように外界との関わり、友達だったり、外だったり、自然だったり、場合によっては大人とか動物とかそういうものも入ってくるのではないかと思います。奈良委員さんのおっしゃる実際にどうやって活用し、保護者の方に理解していただくのかということですが、子どもが生まれる前に母子手帳をいただきますが、子育て手帳のような保護者と共有できる、例えば「めぶく手帳」を充実指針の冊子とは別に用意して、子ども達がこうやって成長してきたということを記録としても残せるようにするとすごく理解してもらいやすくなるのではないのでしょうか。私自身、子育てをしています、自分の子どもの幼児期の子育ての記憶はあっという間に過ぎ去ってしまって、覚えていません。写真等でどこへ行ったのかという記憶はありますが、もっとそういう形で記録が残っていれば、あの時にこんなことをやったということや自分の子どもがこうやって育ってきたということの後からでも振り返れるのかなと思いました。それを幼稚園や保育園と共有して、情報の交換といいますか、もちろん毎日迎えに行くときに、先生から今日はこんなことをやりましたというような説明は受けますが、記録として残る訳ではありませんので。どこまでやれるのかというのは、時間の問題など

もありますので、一つのアイデアとしてあり得るのかなと思いました。

教 育 長 ありがとうございます。よく総合的な学習の時間や進路指導、キャリア教育などを進めるときもそうですが、記録を残す時にポートフォリオとって、とにかくその子に関係するものはみんなここに挟んでおきましょうということをやります。市長さんがICTに関する「ICTするくプロジェクト」というカードの中に母子手帳から色々な記録がそこに蓄えていって、前橋市民であればカード一枚で何でも見られるというような膨大なプロジェクトを考えられましたよね。

市 長 幼児期というのは、学校教育と家庭教育と社会教育が色々関わってられる素敵な時間ですよ。それが中学校に上がると段々と学校教育中心になっていって、また社会に出て行くと社会教育になっていくでしょうから、そういう意味では楽しんで子どもに関わっていただきたいと思います。その中で様々な子どもの特性などのデータがあるでしょうから、蓄えていただきたいなと思います。村山委員長さんと私は同級生ですが、どうして人柄も性格も何でも違ってくるのだろうかと思うのです。それはいわゆる先天的なDNAによつてのプログラム以外に、後天的な社会環境など、例えば人との出会いとか、部活が違うなどのそういう積み重ねが人を作るだとすると、その積み重ねたものを集めておくとおもしろいと思います。そこを見てみたいなど、私なりの科学的な好奇心で色々やろうとしております。小学校時代にボール投げの上手な人が糖尿病になる割合というのをいつか世の中に送り出して、WHOから前橋市が表彰されるということを夢見ているのです。

そのスライドの中に赤ちゃんのときの様子などを、画像としてもデータとして記録していくことによって自分を振り返ったときにすごく楽しいことがあるのではないかと、そういう興味もあります。子ども達に親が忙しくても色々なデータが積み重なっているのをご自身の過去の記録としてログを残しておいてあげたいと思っています。

最後に私の好きな漫画で「攻殻機動隊」というのがあるのですが、その中でプログラムによって動かされているAIのロボットですが、メモリーを積み上げていっぱい貯まると人間の感情が得られるのだろうかといった言葉について非常に興味深く思っています。もしかすると私達は記憶によって積み上げられた人間なのかもしれないと思って、記憶を振り返りたいなと思っています。

教 育 長 村山委員長さん、お医者さんの立場からいかがですか。

教育委員長 たぶんそうだろうと思います。記憶というのは、単に頭の中で意識して言葉にできる、画像にできるというだけではなくて、にのいの記憶と

か音の記憶とか体の感覚など色々なものがあります。人間の脳というのはそういう色々なものを感じられる五感と言われるものだけではない、六感として理解されているような色々な感覚の色々な記憶を全部まとめて、必要に応じてうまくインテグレートして、それをアウトプットするというための装置が人間の脳だと思います。AIというのは、まだまだ人間の脳に比べれば原始的というか、非常に単純で初歩的なものだと思いますが、一旦そういうものができて機能し出せば、どんどん発達するでしょうから、いずれ今市長さんがおっしゃたようなAIも人間に近い存在になる時代が来るのではないかなと、ポジティブに願っています。

教 育 長

今の新しい学習指導要領を作るときの中央教育審議会でも、あと何十年か経てば、人間が今やっている仕事の大半は無くなってしまいかもされない。そういうときに教育が果たしてどういう役割を果たすのかという議論もありました。

ちょっと元に戻って、今色々なものの蓄積が子ども達を作っていくという話ですが、考えてみると色々な蓄積の中における感覚、手触りの感覚、土の感覚、風を感じる感覚とか、あと友達との汗のおいだとか、幼児期に感覚的なぶつかり合いだとか、そういうものを散々体験して作っていくというのが今日の話し合いだと思っていますが、ところが、「トラブル回避の50年」のような話で体験活動が少しずつ抑えられていってしまう。将来、その子ども達が持っている伸びるための蓄積、体の中にあるポートフォリオが無くなっていってしまうのではないかというのが、とても心配です。それが今回の幼児教育充実指針の一番基本的なところにあるような気がするのですが、もう一回吉川委員さんいかがですか。

吉 川 委 員

やはり今思い出してみると、幼児期の思い出というと、どうしても家族とどこかへ行ったときの写真が残っていて、あの頃あそこへ行ったということが思い出されます。生まれてすぐは、首が座ったとか、腰が座ったとか、歩いたとか、成長の度合いが大きくてよく分かるのですが、幼児期になると段々と成長の度合いが少なくなってきて、この子って成長しているのかなと思うときもあります。特に「めぶきの2」の友達と関わるというところですが、トラブルになったときに、色々な意見が受け入れられなかったり、傷付いたり傷付けられたりということが、今から思えばとても大事な経験だったと思います。それがとても必要な経験だったということは、親になってから分かることもあると思います。そういう意味において、経験をポートフォリオとして見返すことができるようになれば良いのだらうなと思います。

教 育 長      ありがとうございます。もう少し議論がありますか。

奈 良 委 員      私は自分が幼児の頃の記憶というのはあまりありません。でも子どもの頃に体験したことが自分のどこかに残っていて、それが今の自分につながるということだと思います。ですから、皆さんがおっしゃるように記録を残すということが大事ではないかと思えます。では、それをどのようにということですが、全てを記録するのは難しいので、家庭で親ができる記録の仕方のようなものを、ヒントを出して支援することも大事だと思います。

教 育 長      先ほどの「トラブル回避の50年」とおっしゃった方は、花まる学習会の高濱さんという方で、子どもの育ちをかなりよく見ている方ですが、そういう人たちが幼児教育を進めるときに塩崎指導担当次長も幼児教育の専門家ですので、塩崎次長が言うには、幼児教育には教科書がない、小学校に行けば教科書があるからそこを頼りになんとかできる。ですが、教科書の無い世界で例えば刃物を持たせる、友達との喧嘩をどうするといったときに、ある保育士さんの話ですが、その保育園では、あなたはそこを動いてはいけないと場所を割り当てるのだそうです。何か子ども達にトラブルがあったときにすぐに抑えられるというのと、怪我があったときに確かにその怪我が起こる状況を見ていましたという証拠が欲しいと言われるのだそうです。

子ども達の遊びを通した学びを本来保障していくための保育が、監視役になってしまう。そこで子どもがどうやって育っていくのだろうかと思えます。そんな時に色々な話をされていて、教育委員会が取ろうとしている手立てが、幼児教育アドバイザーを派遣することでした。教育は、やはり人ありきだと思うのですが、幼児教育アドバイザーがこの五つの体験を具体的に親と一緒に進めるにはどうしたら良いだろうかと考えているのですが、もう少し塩崎指導担当次長から説明をお願いしますか。

指 導 担 当 次 長      幼児教育アドバイザーは、親が自分でやっていることが本当に良いことなのかと悩んでいるときに、「少しぐらい風が吹いていても、子どもがすぐに風邪を引く訳では無いのですから、一緒に外に出て遊びましょう。」と言ってあげるとお母さん達は、「ああそうか。周りは外に出ると危ないし、風邪を引くかもしれないし、交通事故に遭うかもしれないということばかり耳に入ってくるけど、やはり外で遊ぶということは子どもにとって大事なことなんだ。」ということ、自分が思っている通りに子育てをして良いということが分かったというお話をたくさん聞きました。ほかのことについても、大事であるということは親は何となくは分かっているのだけれども、怪我したら困る、病気になったら困る、

だからやらせない方が良いのではないかと守りに入ろうとしたときに、そうではなくて少し勇気を持ってやりましょうという方向にアドバイスをすることでそういうことができたということがたくさんありました。

教 育 長 前橋で14人もいるというのか、14人しかいないというのか、非常に見識と実践力に富む人が選ばれていると思うのですが、幼児教育アドバイザーはどうやって選ぶのでしょうか。

指導担当次長 その道の優れている方を人選しています。例えば、臨床発達心理士で色々なところへ行って相談を受けていらっしゃる方、大学で幼稚園や保育所の先生方を養成している方、幼稚園長や保育所長や小学校長といった現場での経験のある方、子育て支援のサークルを立ち上げて保護者と一緒に活動をしている方などに、こちらからお願いをしていただいています。

教 育 長 やはり幼児教育であっても、人が基本的な機運を握っていると思います。私達教育委員会は、子ども達の教育内容はもちろんですが、それを指導したり支援したりする指導者を育てていかなければならない。それも大切なことだと思っています。

湯 澤 委 員 先ほど話がありましたが、まさに一人目の子どものときはどうやって育てたら良いのか分からないというのが現実の話だと思います。ですから、そういうときに幼児教育アドバイザーがきちんと手を貸してくれるというのはとても大事なことだと思います。私達も自分達の親よりも、この五つの体験が減っていたのだらうと今振り返ると思いますので、それがずっと続いてしまうと、どんどんこの五つの体験が減ってってしまうのではないかと思います。やはりその見識や経験のある専門家の方に積極的に支援をしていただく必要があるのだらうと思います。

幼児教育センターの支援として「現場研修」と「子育て井戸端会議」とありますが、本当にこれだけで良いのだらうかという思いも今の議論を聞いていて思いました。もっと積極的に打って出ないと、五つの体験はどんどん減るばかりではないかという危惧を感じています。

教 育 長 そろそろ時間ですので一言ずついただきたいと思います。どこからでも良いので、たくさん課題をいただければありがたいと思います。

教育委員長 人を育てるということで言いますと、先生や保育士さんに限らず、案外そうだらうと思うのですが、善意を持って教育や医療をやっている人の失敗をあまり責め立てないような社会になってくれると良いなと思います。例えば、医療の世界では、産婦人科医が減ってしまって大変な問

題になっています。それは産婦人科で医療事故が起こった場合に、お産に関わった医者が民事的にも刑事的にも責め立てられてしまうため、産婦人科医になるお医者さんが減ってしまい、結果的に大変な思いをするのは国民全体ということになってしまいました。もちろん不勉強であるとか悪意があれば問題ですが、一生懸命善意を持ってやっても事故や間違いというのは医療の世界では起こり得ることですので、ある意味教育というのも医療ほどでは無いのかもしれませんが、そういう可能性があると思います。そういうときにあまり先生たちを責めるということがないようになってくれたら良いのではないかと思います。あまりこういうことを言うのご批判もあるかもしれませんが、そう思います。

市長

今、村山教育委員長さんがお話されたように、人の責任に不寛容、つまりあなたの責任でしょうという社会になってきていますよね。教師が子どもを守るのが教育現場における教師の責任でしょうと。私はまさにその通りだと思います。みんなが寛容の中で暮らせる社会を作っていくことが必要だと思います。さて、私は誰かの責任において育てられたかという、私は自分で育ってきたという気がします。私自身が自分の喜怒哀楽の記憶を積み重ねて、自分の歴史、記憶を自己解釈して、私はこうやって育ててもらったと解釈しているだけではないかと。実は記憶を吸い込んできているのは自分自身の体験だけだろうとっていて、私が今の私になってしまったのは自らの責任だと思っています。みんながそんな気楽さの中で育っていくという世の中というのは、自然で良いじゃないかと思います。

今、幼児教育として皆さんが色々と考えていることも、それは何かスタンダードな子ども達を育てていこうという義務感や責任感からであって、実はこのスタンダードな人間っているのだろうかと思うのです。ポスト工業化社会の中でどうやっていくのか分からない中で、スタンダードから逸脱した人間こそ、市と社会に必要な人間なんじゃないかと考えながらいつも色々複雑な自分の人生を振り返っております。

吉川委員

医療でいえばインフォームドコンセントのように、私の園ではこういう子どもに育てていきたいのでこうしますということを十分説明して、保護者の方からも是非こう育てて欲しいという同意が得られるような手引きにできたら良いと思います。道具を使うのは、こんな子ども達を育てていきたいので、この園では使わせていただきたいと思っていますというように使えたら良いのかなと思います。

奈良委員

幼児教育アドバイザーの先生方は、専門家として色々な研究をされて経験も豊富だと思うのですが、アドバイザーの先生方の研修も必要ではないかなと思います。時代と共に色々変わってきますので、アドバイ

ザーの先生自身が悩むこともあると思います。そんな時にみんなで考えて解決していくこともお願いできればと思いました。

教 育 長

色々な思いを語っていただきました。幼児教育を今年やろうと言ったのは、市長さんや皆さんとの色々なお話の中で出てきたことだと思いますが、やはり基礎をしっかりやろう、「めぶく」とありますが、芽が出たところだ、種を蒔いた、その芽がめぶいて、そして成長していくように、そんな前橋を作りたいという思いから、「めぶく～幼児の育ち～」といたしました。

教育の中では、自分自身を指導して伸びていくための力は「自己指導能力」と言いますが、その個性を活かしながら子ども達が伸びていけるように、そのための基礎的な部分が幼児教育かなと思っています。

今日お話をたくさんいただきましたが、これをもう少し詰めて、最終的な幼児教育充実指針を仕上げる形になると思います。この後のスケジュールについて説明してください。

指導担当次長

この幼児教育充実指針の使い方についてのご意見もいただいたので、最終的には1月ぐらいに形をまとめ、印刷製本して、できれば幼稚園、保育所の3・4・5歳児と園所には配りたいと考えています。あとは来年度になってからまた新たに増刷をすとか、HPに掲載もしますが、実際に冊子が手元にあった方が実践しやすいと思いますので、文科省からいただいている予算でできるだけ印刷をして、来年度からはもう少しこれが分かるような形で、例えば一枚ものの何かを作るなど拡げていければと考えています。いずれにしても、今の議論を基に幼児教育充実指針を仕上げたいと思います。

教 育 長

大切な子ども達の幼児期ですので、前橋の子ども達をみんなで育てていきたいと思っています。ありがとうございました。

教 育 次 長

ありがとうございました。それでは、次の協議事項に移らせていただきたいと思っています。

## 議題2 平成29年度「教育行政の大綱」の策定について

教 育 次 長

次第の2番目でございますが、「平成29年度教育行政の大綱の策定について」をお願いしたいと思います。

前橋市の教育行政の大綱ですが、昨年策定していただきましたとおり、お手元に資料がありますが、教育振興基本計画と重点事業の二つから成り立っております。

教育振興基本計画につきましては、文言の整理等はございますが、内容につきましては、おおよそ昨年度と変わっておりませんので、本日は

重点事業を中心にご議論いただきたいと思います。

一枚紙のA4の資料をお配りしていますが、29年度重点事業とありますが、左側に28年度重点事業、右側に29年度重点事業という整理をさせていただいております。左側の28年度重点事業を昨年ご議論いただいて10事業を重点事業として整理させていただきましたが、本年度は8事業にしたいという案でございます。28年度重点事業のうち7から10までの4事業について横線が引いてあると思いますが、その評価について最初にご説明をさせていただきます。

平成28年度重点事業という縦の資料を1枚めくっていただき、資料7から10までの四つの事業については、平成29年度の重点事業とはなっておりませんが、現段階での成果についてご説明させていただきたいと思います。

まず、資料7の「ひきこもり傾向中学卒業生支援事業」についてですが、この事業は、主に中学校の在校生を対象としていたひきこもり傾向の子ども達の支援を、中学校を卒業後、進学も就職もしなかった子ども達まで対象を拡大し、市の関係各課につなぐなど社会的自立に向けた支援を行うものでございます。今年度は、関係各課と3回の情報交換を行いながらオープンドアサポーターや学校による支援対象者への家庭訪問や定期的な連絡を行いました。なかには就労までつなげられつつある事例もあるなど成果を挙げておりますので、今年度も引き続き支援を行ってまいります。

次に、資料8の「子ども読書活動の推進」についてでございますが、この事業は、平成26年度に策定した「第二次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもが主体的に本と関わることを目指し、子ども中心の活動を推進するものでございます。具体的な取組例としては、テーマと対象年齢に沿った本を福袋にして貸し出す「〇〇袋」などは、秋の読書週間で用意した110セットが数日のうちに貸し出されるなど大変好評でした。また、第一次計画から実施しております、0歳のあかちゃんに絵本を1冊プレゼントする「ブックスタート事業」や幼稚園・保育所などに絵本100冊を3か月間貸し出す「絵本セット団体貸出事業」などの各事業実績も順調に推移しており、子ども達が本と出会うための環境づくりや、子ども達が自ら本に親しめるような様々な取り組みを進め順調に成果を挙げているところでございます。

次に、資料9の「総社資料館整備事業」ですが、総社歴史資料館については、平成26年度に事業着手し、本年10月1日にオープンしました。展示概要は、「総社古墳群」、「山王廃寺」、「秋元氏と天狗岩用水」の三つを大きな柱として、ICT技術を活用した視覚的に体験できる展示など、郷土の歴史や文化を分かりやすく学べる工夫をしています。開館後の1か月間で小学校だけで31校2千人を超える来館者があるなど、地域学習の核として、歴史を生かした地域づくりの拠点施設な

どとして、見て・触れて学ぶことができる総合的な学習の場となっております。

最後に、資料10の「共同調理場の適正化」ですが、平成29年4月から粕川共同調理場を東部共同調理場に統合し、西部共同調理場の調理業務を民間委託するため、計画を着実に推進しているところでございます。

それでは、引き続きまして、29年度新規の重点事業について指導担当次長からご説明させていただきます。

指導担当次長

それでは平成29年度重点事業（案）について説明させていただきます。この中には、八つの重点事業を1枚ずつ資料にして綴じ込んでありますが、協議していただきたいのは八つ全てになります。この中で新しく三つの事業を立ち上げましたので、そのことについてだけ簡単にご説明させていただきます。資料3の「まえばしスクールサポート事業」、資料5の「英語教育の充実」、資料8の「コミュニティセンターの充実」ということで、資料を作らせていただきましたのでご覧ください。

はじめに資料3「まえばしスクールサポート事業」ですが、これは、全て前橋市が単独で学校をサポートする人を配置する事業のことです。今までは少人数学級編制であればそれだけで事業になっていましたが、英語教育の事業であるとか不登校対策の事業であるとか、それぞれを事業としていたのですが、これは全て教育委員会として学校をサポートするための人を配置する事業ということで、「まえばしスクールサポート事業」として一つにまとめてみました。これはかなり予算的にも大きくて来年度お願いできれば、これだけで4億円くらいの予算規模となっています。それだけ学校はこの人たちによって助かっているということになります。その中でまず少人数学級編制ですが、昨年度小学校5・6年生の単学級を2学級にしました。今年度は10学級ですが、来年度はもう少し増える予定です。3・4年生で35人学級のところ5・6年生に上がると40人学級になってしまい、急に増えてしまうため、現場からも是非引き続き35人学級を維持して欲しいという声があります。色々ご検討していただいた子どもと向き合う時間を確保する時間のための、単独で授業ができる小学校教科指導講師が今年度は5人、それから校務補助員が今年度は2人ですが、これは本当に効果的でこのことによって子どもと向き合う時間ができたので是非もっと増やして欲しいという声もたくさん聞かれます。非常に効果のある事業だと思います。また、特別支援学級の支援をする介助員やほっとルームティーチャー、不登校対策ではスクールアシスタント、オープンドアサポーター、スクールソーシャルワーカー、適応指導教室職員などで不登校の対策をしております。外国人の子どもがいれば、日本語指導員が指導に行き、後で出てきますが、英語の授業を支援するための拠点校英語推進員やALTも配置

しています。こんな事業をしています。来年度は新たに「学習サポーター」というのを考えました。これは、通常の学級を支援する人です。今年度で言えば、マイタウンティーチャーと個別推進補助員に当たります。マイタウンティーチャーというのは、国語なら国語、算数なら算数の時間で、ある先生の教室にもう一人入ってT1、T2で指導したり、算数だけ少人数に分けたりという指導ができる先生です。個別推進補助員というのは、通常の学級の中でちょっと気になる子、発達障害の子などに個別に付いてその子に支援をするというような、特別支援関係の支援の補助員です。それぞれとても大事なのですが、マイタウンティーチャーだからこれをしなければならぬ、個別推進補助員だから補助だけするというようになってしまうと、学校では使いづらくなります。学校にはもっと色々な子ども達がいるので、子ども達にもっと合わせたような形にするため「学習サポーター」というのを考えています。例えばですが、分数の掛け算、割り算になったら急につまづく子がいます。そういう子に個別に支援をしたり、これまでの個別推進補助員のように発達障害の子を支援をしたり、それからちょっと欠席を一週間したような子にサポーターが応援したりというように、学校の状況に応じて柔軟に対応できます。学習サポーターが各学年に1人ずついれば良いですが、まずは全ての学校に学習サポーターを1人、大きい学校では2人配置して、子ども達の色々なつまづきを支援していければ良いと思います。これが一つ目のまえばしスクールサポート事業です。

二つ目ですが、前橋の小学校の英語教育を進めるときに来年度からは非考えたいということをして「英語教育の充実」として提示させていただきました。今年度中に学習指導要領が改訂されて出てきます。中教審からの答申が12月末という話ですので、間もなく小学校英語のことが出てきます。そうするとそれを29年度のうちに周知したり準備したりしなければなりません。群馬県は、英語については30年度に先行実施をすると言っています。30年度に実施するということは来年かなり準備を進めないと実施できません。31年度に教科書が採択されて、32年度には完全実施という流れになってきます。何が変わるのかというと、大きなことと言うと小学校3・4年生では今まで何もなかったのが、30年度から週1コマ外国語活動をするようになります。今は小学校5・6年生が週1コマ外国語活動をしています。30年度から週2コマの英語の教科書を行うということになり、かなり大きなことです。現状学校の中の1週間の時間割を見ますと、3・4年生も5・6年生もこれを見て分かるように30年度には1コマ分増えることになります。ただ、現状の時間割表を見てみますと1時間目から4時間目、お昼を挟んで5時間目、6時間目と週29コマほとんど授業が入っています。ほとんどの学校がこのようになっています。これで月曜日の6時間目までやるのかということとそこにも無理があります。プラス1コマをどこのコマでやるのかという

ことが一つ議論になります。前橋市の学校では週5日制を維持していきたいので、土曜授業だとか夏休み授業は先生方の負担を増やすことになるのでやりません。では、どうするかというと、例えば1コマは授業の時間で1コマ取って、もう1コマをお昼休みの後で5時間の前に15分を3回取って45分の授業にすることによって、45分が1コマです。これで1時間分とするというようにやる。この図で言いますと、火・水・木が帰る時間が15分遅れますが、子ども達にとっても、やりやすいのではないかと考えています。実は結果的にそうなるとう英語の教科で大切なことは、コミュニケーション能力を身に付けることです。週1時間あるよりも結果的に毎日のように英語の時間がある方が、子ども達のコミュニケーション能力が上がるのではないかと考えています。このやり方は、先行して城南小学校で実施していますが、毎日のように英語のコミュニケーションができるため受け入れやすいようだという結果が出ています。ただ、週1コマの時間にはALTが付くのですが、このモジュールの時間にはALTを付ける訳にはいきません。つまり、担任の先生に頑張ってもらわねばならないということになります。この英語の時間、特に5・6年生の英語の時間を誰がやるのが良いのだろうかということを考えました。授業になりますから、評価をして返さなければなりません。実はALTや外部の指導者だと評価までできません。そうなるとう担任か英語の専科かのどちらかということになりますが、なかなか専科は望めないという状況の中で、担任が授業を行うために教育委員会が応援しようと考えています。城南小、桃井小で実施していますが、学級の間関係や一人一人の子どもがよく分かっているから、授業がしやすい。小学校の授業というのは基本的にそうなのだと思いますが、この英語の時間を家庭と連携していける、家庭ではどうですかと学級通信などでも知らせる。家庭も新しい教科ですから不安がありますが、担任が授業することによって家庭との連携がしやすくなります。もう一つは、朝の時間や帰りの時間に昨日のことを英語で話してみようというような時間を設けたり、学校行事につなげたりします。担任だとなつなげやすくなるという良さがありますが、課題はやはり英語に自信のある先生ばかりではないということです。これが一番大きな課題だと思います。では、どうやって英語に自信のない先生を応援しようかと考えたのが、全学級にALTを週1コマは入れましょうということです。実際今大きな学校ですと2週間に1回になっていたりします。全ての小学校で週1コマはALTが入れるようにもう少しだけALTを増やしていきたい。それと拠点校英語推進員を配置してその先生にどうやったら英語の授業ができるかというのを応援してもらおうということを考えています。これが小学校の英語教育の推進のために教育委員会で考えていることです。

三つ目の「コミュニティセンターの充実」ですが、現在、公民館が中

学校区ごとにありますが、本庁管内だけは公民館ではなくコミュニティセンターがあります。それでコミュニティセンターを来年度は充実させたいと考えています。なぜかと言うと、公民館は社会教育施設として位置付けられていますが、コミュニティセンターはそういう位置付けがありません。また、公民館は直営ですが、コミュニティセンターは指定管理です。主な業務ですが、公民館は様々な講座があつたり人を育成したりネットワークを作つたり情報発信したりと知の循環をしていくような役割を持っていますが、どうしてもコミュニティセンターは貸館業務が中心になってしまっているという課題があるため、コミュニティセンターの在り方について社会教育委員会に諮問をしました。そしてもう間もなく答申が返ってきますが、今は中間報告まではいただいています。その中でコミュニティセンターを社会教育施設としてももう少し役立つように見直していくことが大事ではないかという中間報告をいただいています。今は、中央公民館の下にコミュニティセンターがぶら下がっているような状況ですが、来年度は生涯学習課が地区公民館、中央公民館と共にコミュニティセンターを支援する仕組みを作り、中身を充実させたいと考えています。そのためにどうしたら良いかということについてご意見をいただけたらと思います。

私の方からは新規の三つの事業についてのみご説明させていただきましたが、重点事業は八つありますのでそれぞれについて、どこからでもご意見をいただければありがたいと考えております。

教育次長

ありがとうございました。それではおおむね午後4時30分頃まで、お時間の方があまりございませんが、ご協議のほどよろしく願いいたします。

教育長

では、協議を続けたいと思います。重点事業ということで、三つだけお話いただきました。ほかにもたくさんあるのですが、特に大きな課題性を持っている三つを挙げさせていただきました。「まえばしスクールサポート事業」は、元々市長さんから学校教育のこれからは、学校の先生方が子どもと向き合う時間を確保すれば様々なことが解決するのではないかというお話をいただいてスタートしました。少人数学級編制は、県の基準で小学校5・6年生は40人学級なので40人の学級編制の子どもは3・4年生までは2クラスになりますが、5年生になったときに1クラスになってしまいます。それを避けるために市費で臨時の教員を採用して今年は10人、来年度は14人ぐらいということで結構大変なお金を掛けながらになりますが予定をしております。子どもと向き合う時間の確保とありますが、校務補助員は学校の教員でなくてもできる事務を手伝います。これは市長さんの提案で予算を付けていただきました。また、今まではマイタウンティーチャーだけでは一人で授業を行う

ことができませんでしたが、予算を付けていただいて一人で授業できるための資格を持った人を小学校の教科指導講師として今は教科担任制の理科の専科で入って、とても効果が出ています。また、通常の学級支援ということで「学習サポーター」と少し名称が変わりました。そのほかにもたくさんありますが、ここはたくさんお金が掛かるところでもあります。私達基礎自治体の教育は、下手をすると市の財政力に依存をしている部分がとても大きくなってしまいうため、なかなか辛いところであると思っています。そのような中で市の予算で4億円が投じられていることになります。市長さんは、最終的には市の財政の分配を決定していただくという大きな役割を果たしていただいている、ここまで来たのだと思います。

教育委員長 学習サポーターというのは、非常に私からすればありがたいと思います。障害者差別解消法というものがありますが、障害というのがあると、そういう言い方はしていませんかもしれませんが、個性という言い方をしているかもしれませんが、個性を受け入れる形で、生徒さん同士あるいは先生方が発達障害のある生徒さんを受け入れていくための良いシステムではないかなと思います。本当に前橋市が教育にお金を掛けている例ではないかと思っています。

湯澤委員 確認ですが、少人数学級編制や小学校指導講師は小学校に入ることですが、学習サポーターは中学校にも入るのでしょうか。

指導担当次長 学習サポーターは中学校にも入れたいと事務局では考えております。

湯澤委員 色々な形で支援が必要で、中学校や高校でも、最近の報道でもすごく部活動の指導で先生の余裕が無いため、ほとんどの学校で全教員が関わっているというお話がありました。前回の会議でも市長さんから多忙さを解消したいと伺っていて、難しいことだとは思いますが、中学校への支援も積極的にしていただきたいと思いました。予算が絡むことですので、難しいことかもしれませんが、ご配慮いただけたらと思います。

教 育 長 中学校の部活動の指導が大変問題になっていますが、実は部活の指導がクローズアップされる中で、本当は学校の毎日の授業と子どもたちの指導で本当に忙しい思いをされていて、学習サポーターを考えているのですが、結局、どういう人をいつ、どのように学校に入れていくか、また、そのための財源をどうするかが大きな課題だと思います。

奈良委員 皆さんおっしゃるように予算があれば是非進めていただきたいと思います。今、一人一人の児童生徒に目を向けるということが非常に大切に

なっていますので、是非ご理解をいただいで進めていただけたらありがたいと思っています。

A L Tの関係ですが、24名を中学校に配置をして、小学校に週1回とありますが、それで全ての小学校をカバーできるのでしょうか。また、クラス数によってどのような工夫をされているのでしょうか。

指導担当次長

実際、A L Tの授業が2週間に1度の学級というのがあります。週1回小学校に行ったとして5・6年の2クラスなら4時間、3クラスなら6時間必要になります。もし4クラスあれば時間が足りなくなります。ですので、1週間に1度になってしまう学校がいくつか生じています。そういう意味で、申し訳ないと思っています。

奈良委員

特に英語って最初が大事だと思いますので、できる限り公平にA L Tを配置して授業ができれば良いと感じました。

吉川委員

先生方が色々と指導方法を研究なさっていたりと大変だと思います。先生方の能力が引き出されるためにも、時間的にも余裕があって、子どもと向き合ってもらう時間がたくさんあることが大事だと思いますので、「まえばしスクールサポート事業」は、学校をサポートしていく、先生をサポートしていく事業になったら良いなと思います。予算も掛かるとは思いますがよろしくお願ひしたいと思っています。

教育委員長

小学校の英語について現場視察で感じたことですが、英語と言いますが、英語を題材にしたコミュニケーションの学習だと私は感じています。その意味で、いわゆる小学校の時から英語を習っていたら国語ができなくなるというのは少し次元が違うと思っています。それに関係することですが、高崎市がやっている取組で、普段はあまり目立たない生徒が英語の授業では発言力があって、段々自発的に意見を言えるようになったという話があります。それはいわゆる英語能力というよりも、英語教育という名前を借りた場でコミュニケーション能力を発揮できるようになったということだと思います。そういう意味で、英語教育というよりコミュニケーション学習というように先生方に理解していただくと、あまり英語に自信が無いということよりも、他人とコミュニケーションを取る能力を英語という新しい題材を使ってやる授業だと思っていただけたらと良いのかなと思います。

市長

やはり全体的にやりたいことは、教師と子どもが目と目が合う、見られている、それって優しい記憶につながりますよね。一昨日、タイガーマスク運動の伊達直人（河村 正剛）さんが来てくれました。お話の中で、18歳で児童養護施設を卒園した子ども達のために着物屋の友達に

頼んで成人式に着物で出席してもらったそうです。子ども達はもちろん着物が着られて喜んだのですが、その時に子ども達が写真を撮ってもらったので娘ができた時に娘に見せられると話していたそうです。やはり写真などで自分を振り返った時に、優しさに包まれた記憶というのが人を作っていると仮定をすると、とにかく少人数になって先生に見られているとか、今までうまく言えなかったけどALTにはフレンドリーに話せたとか、そういう記憶の積み重ねを作っていくって、子どもたちが自ら優しき人間に育っていく、そういう機会を作っているということだろうと私はつくづく思っています。私は、教育委員会が色々とアイデアを出していただいて、かといって共同調理場を適正化して財源を生んでとみんなの力でできていると私は感謝しています。

吉川委員 小学校5・6年生の2時間の授業でここまでできるようにして欲しいというのはあるのでしょうか。

指導担当次長 はい、もちろんあります。今度改訂される学習指導要領が、幼稚園、小学校、中学校、高校と全て一遍に改訂されますので、その中で縦のつながりというのが非常に重視されていますので、小学校の英語が変われば中学校、高校の英語が充実するのは当然で、文科省は小中高のつながりのある英語教育というのを研究しているということです。

教育長 教科化されると評価することになりますので、その延長上にここまでできるようにするというようになってきます。

奈良委員 高校の授業は英語で、英語の教師が英語の授業は全て教室に入った時から授業を進めるようにという方向になっています。なかなか全てという訳にもいかないのですが、そのようになっています。今、指導担当次長さんがおっしゃったように、ALTの配置などで耳が慣らされてコミュニケーション英語につながるのかなと思いました。

教育長 ありがとうございます。時間の都合で「コミュニティセンターの充実」については、コミュニティセンターと公民館の役割については、これからスタートするということがありますので、議論は後でいただけたらと思います。

市長さんから少しまとめていただきましたので、今日の全体の話の中で当然ながら予算も掛かることですが、私たちは市長さん応援していただいたり、理解していただいたり、思いを述べていただいたりしながら総合教育会議を進めてきました。予算の分捕り合戦ではありませんので、いかに知恵を使って市民の皆さんに納得のできる教育行政を進められるのかということだと思っています。市全体の流れの中でというお話

を先ほど市長さんからいただきましたので、この時間の議論は終了させていただきたいと思います。最後に委員長さん一言ありますか。

教育委員長 先ほどの市長さんのお話を伺ってつくづく情の厚い人だと思いました。以上です。

教 育 長 この協議の時間は以上で終了したいと思います。ありがとうございました。

教 育 次 長 長時間ありがとうございました。前橋市の教育行政の大綱ですが、今ご議論いただきましたように教育振興基本計画のほかにこの8の事業を中心に大綱を定めさせていただきまして、決裁等チェックをさせていただいて定めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

次回の予定につきましては、協議すべき議題が出ましたら、改めて総合教育会議を開催させていただきたいと思います。具体的な日程については、改めて事務局からご連絡を申し上げます。

以上で本日の会議事項は全て終了いたしました。長い間ありがとうございました。これにて閉会いたします。

(午後4時28分)